



レビ網のWETA局が、テリドンを使ってワシントン・ポスト紙、公共図書館、政府官庁、スミソニアン研究所、調達局情報者センターから常時提供される情報を家庭やいくつかの公共の場所で映し出せる実用実験に取り組んでいる。またニューヨークのタイム社は、通信衛星を通じて同社が発行している七つの雑誌、ワシントン・スター紙、同社出版の書籍などの内容を全国の一般家庭に届ける多重チャンネル・テレテキスト実験放送にテリドンを採用した。

「ロス・アンゼルス・タイムズ」紙などを発行しているカリフォルニアのタイムズ・ミラー社では、今秋、ロス・アン

ゼルス、オレンジ両郡の家庭二百戸にテリドン端末器を設置し、電話線とツウエイ・ケーブル網を通じて、銀行業務、切符予約、買い物などに関する情報を提供する実験に取り組む。

またベネズエラでは、同国政府がテリドン端末器を首都カラカスのいくつかの情報センターや公共図書館、電話室などに設置して、社会的サービス、教育、統計、保健衛生などに関する情報を一般市民が得られるようにするという。

さらに、カナダの国際電信電話公社テレグロブ・カナダは、今年の中頃、テリドン・システムを使った総額およそ四百万ドルという大規模な国際データベース・プロジェクトを発足させる。データ

「私たちが求めたのは、ちょうど電話が共通の『声の場』を作ると同じように、個人間に共通の『視る場』を作り出すシステムでした。一人が画面に絵を描くと、その絵がただちに別の人の画面に現われ、二人で描き変えたりできるような共有する『黒板』を作りたいと考えていました」

通信省通信研究センターの
ハープ・ブラウン研究主任

ベースは最高十万ページの情報を収め、ツウエイ・ビデオ端末器や通常の通信



網を通じて、世界中のユーザーの利用に供されることになっている。この三年計画に使用される端末器およびソフトウェアは電子出版会社インフォマーケット（本社トロント）が供給する。

教育にも利用

カナダ最大の教育テレビ・ネットワークであるTVオンタリオでは、テリドンを教育機器として用いる実験を行っている。テリドン受像器を共通の「電子黒板」にして、生徒たちは課題を選び、答をキーボードでたたく。最後に正解が画面に

現われる。テリドンは図形化する能力がすぐれ、色彩画や写真のようなイメージを送信できるので、数学、科学、技術科目で使われるいろいろなイラストや、経済学の比較図表、地理の地図や輪郭図、社会科の漫画などを写し出すことができる。その日の株価をみて、金などの価格がどう変動しているか、ということも勉強できる。現実の生きたデータが利用できるわけだ。

また自分のベースで、しかもいろいろな資料を利用しながら、どんな時間でも勉強できるので、遅れた生徒にも進んだ生徒にも便利。

この実験に参加している人たちの多くは、TVオンタリオのあるトロントからはるか離れた北方の村々に住んでいる。カナダのアニクB通信衛星を通じて、TVオンタリオの通常の番組を受信し始めたばかりだが、同じ衛星の中継によりビデオテックスも利用できるようになったわけである。これらの村々では気候が厳しいため、子供たちは学校に行けないことが多い。テリドンが実用化すれば、これ